

MOYASHI

八代市立代陽小学校六年 吉野湊介

きっかけ

春にオタマジャクシを、家の中、外で育てた時に、外で育てた方が足や手が出るのも、カエルになるのも早かった。
成長の違いがあつておもしろいと思った。他の生物ではどうかと思つた。
今回、もやし屋さんから豆もらうことが出来たので、もやしを調べることになった。



実験方法

- 一晩水につけた豆を試験管にいれ、違う四つの条件で栽培し観察する。
(大豆と緑豆、二種類の豆を育てる。)
- 【四つの条件】
- A: 家の中、アルミホイルで遮光したもの
 - B: 家の中、日光に当てるもの
 - C: 外、ベランダで育てるもの
 - D: 外、土に植えたもの
- ・各条件に五粒ずつ試験し、毎日、芽の長さや色などを観察する。
・乾燥しないようにこまめに水をやる。



A B C
成長の様子
Aは豆のDの中
成長: もやし屋さんに近い条件
「湿度が低く、暗い」が育つと遅いから。

結果(ABC)



結果(D)

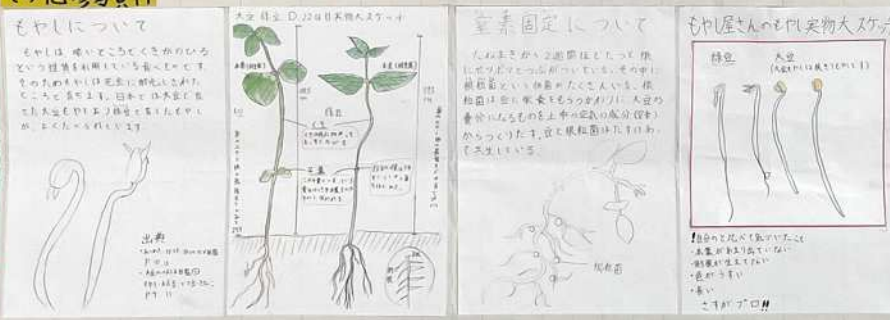


結果(まとめ)

大豆の成長
① 1日目: 1.5cm
② 2日目: 2.5cm
③ 3日目: 3.5cm
④ 4日目: 4.5cm
⑤ 5日目: 5.5cm
⑥ 6日目: 6.5cm
⑦ 7日目: 7.5cm

緑豆の成長
① 1日目: 1.5cm
② 2日目: 2.5cm
③ 3日目: 3.5cm
④ 4日目: 4.5cm
⑤ 5日目: 5.5cm
⑥ 6日目: 6.5cm
⑦ 7日目: 7.5cm

その他参考資料



考察

- ・もやしは外よりも家の中の方がよく育った。これはオタマジャクシとは違った。生き物によって育ちやすい環境は異なる。
- ・緑豆の方が成長が早く、子葉がしわしわになるのも早かった。緑豆の方が、子葉の栄養を早く、くさ・黄に染み込んでいるのが大豆より早いと考えられる。
- ・条件Aではどちらの豆とも個体差があまりなく成長が早かった。条件Bは真つ暗で条件が育ちやすかったと考えられて、条件Cとは光の当たり方による差があつて成長に差が認められなかった。
- ・条件ABCでは、今日ほどで育ちが早くてよかった。
- ・水だけで成長できるのは10日ほどが限界だと考えられる。
- ・条件Dは条件ABCと違って、伸び続けている。それは土の栄養が関係していると考えられる。
- ・土の栄養、水分、光、子葉の栄養が成長に関係している。

感想

この研究をして、生き物によって住みやすい、育ちやすい環境があるということが分かりました。
外の方が育ちやすい動物もいれば、家の中の方が育ちやすい植物もいて面白いと思いました。
「みんながって、みんないい」と思いました。それぞれの育ちやすい環境を守り合うことが大切で、それが「持続可能な社会」につながると思います。ほくは、動植物の環境を守るためにまず、動植物の声を聞いていこうと思います。
今回もやしを育ててみてとても大変でした。大変なことを毎日しているもやし屋さんさんはすごいと思いました。

